

## 琉球近海におけるトビイカ *Symplecteus his oualaniensis* (LESSON) についての基礎研究 - 1 漁獲量の増大の可能性について

資源調査室 当真 武

琉球近海で漁獲されるトビイカはスルメイカ科に属し、年々多獲されている沿岸重要水産動物の一つである。

沖縄のイカ漁業は1屯未満の“くり舟”による漁法が主体であるが、1967年268屯、1968年402屯、1969年242屯が獲れている。

今後動物性蛋白質の供給源、マグロ類のエサ及びエビ、ウナギ養殖飼料としてイカ類の果す役割はさらに大きくなると考えられる。

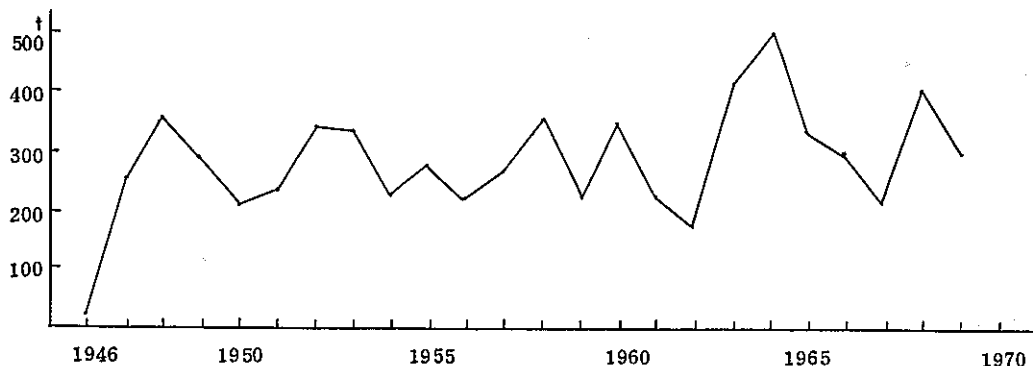
本土で多獲されるスルメイカの研究が進んでいるのに比べ、トビイカについての研究は皆無に近い。そこで本種の生物学的及び漁場学的研究は急務であると考えられる。この意味から1969年5月から1970年12月まで基礎的な調査研究をしたのでその概要を報告する。

この報告をまとめるにあたり琉球政府気象庁、糸満漁業協同組合ならびに直接資料の採取その他の労をわずらわした上原栄輝氏に感謝する。

### 調査結果の概要

- 1) 沖縄におけるイカ類の漁獲量は年々増減はあるが1947年から1969年の間に年平均、325屯のイカ類が漁獲されている。イカ類漁獲量の月別の推移から類推すると、そのうち70%から80%すなわち約250屯がトビイカと思われる。
- 2) イカ釣業は全球的に操業されているが、約87%が1屯未満のくり舟、残り約13%が1屯から5屯未満の舟を使用しており、くり舟による日帰り操業（夕方から翌朝まで）が主体をなしている。
- 3) くり舟によって操業されている漁場は200m等深線に沿って形成されている。

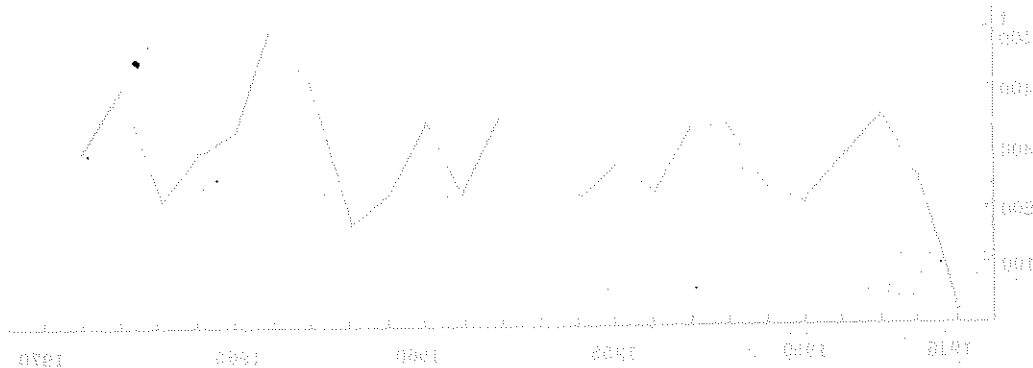
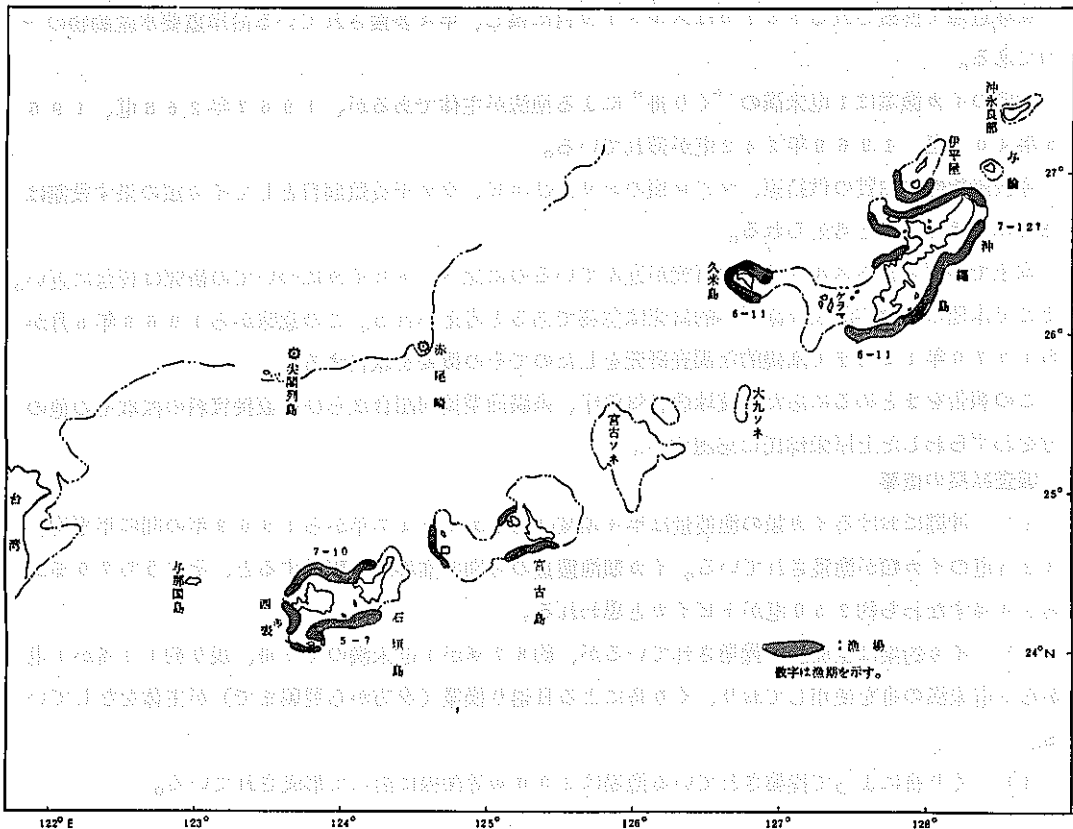
図1 全琉イカ類漁獲高の変動



4) 漁法はエサ(イカ)を釣針にかけて、海中におろし、ゆっくり引き上げるとそれにつれて浮上してくるイカを引っかけて取る、いわゆる"ヒッカケ漁法"がほとんどである。副漁具として集魚灯を用いているが大部分は水上燈である。自動イカ釣機は試験操業の段階でまだ普及するには至っていない。

(一) 飛騨産エサ(イカ)の産地(400000) : 1000000  
 (二) 飛騨産エサ(イカ)の消費地(400000) : 1000000

図2 琉球近海におけるトビイカ漁場図



5) 本土ではスルメイカが沿岸の定置網でも漁獲されているようであるが、トビイカについてはこれまで湾内や浅海に來遊したという報告はないので、トビイカはスルメイカにくらべより沖合性が強いと考えられる。なお200m等深線上より沖合で漁場が形成されるかどうかについては、そこへ出魚する舟がきわめて少なく、情報が得られないので今後さらに検討を続けたい。

6) 漁期は八重山地域では5月から10月、沖縄本島では6月から11月であり、八重山と沖縄本島では漁期に1カ月のズレがある。このことはトビイカの回遊状況に興味深い問題を提示していると思われる。

7) トビイカの漁獲適水温の範囲は22℃から28℃であり暖海性のイカといえる。

8) 黒潮の北上による27℃等水温の沿岸への接近と漁獲量の間には正の相関がある。

表1 糸満漁協に水揚されたトビイカ漁獲量の変化

年	延出漁日数	延出漁隻数	漁獲量	1日1隻当りの漁獲量
1966	77	1176	42014kg	35.7kg
1967	87	1236	47659	38.7
1968	121	1106	41501	37.5
1969	99	1286	29907	23.3
1970	73	1112	49166	44.2

9) 産卵期について6月から10月中旬まで完熟卵、熟卵を保有する個体が多いことから産卵期は比較的長いと思われる。

10) 胃内容物については延約500個体を調査したがイカ類が多く(共食い)、次いで魚の骨片とウロコであった。また10月に入ると胃重量に個体差が著しくなる傾向を示した。

11) 糸満漁協に水揚される毎日の漁獲量、月令と風向の関係を検討した結果、糸満の舟が出漁する喜屋武沖から久高島にかけての漁場で、風向が南東から東の風、すなわち沿岸に向かって吹く風のと月令が0.9から1.2と、1.9から2.9、すなわち朔望月から新月にかけて漁獲が多い。このことは“風が沿岸に向かって吹く時は好漁”という長年の経験から得た漁師の話と一致する。風向と月令が一致するとき漁獲量はかなり多い。

漁場を形成する要因をさらに究明し、漁期の延長と漁場の開発を図り今後“くり舟操業”から大型化への可能性を続けて検討しなければならないが、トビイカ漁獲量の増産はかなり期待できると考えられる。詳しくは研究報告をのべたい。

参考文献

- 1) 浜部 基次 1965 : 日本海産スルメイカの発生と生態に関する研究 (京都大学提出学位論文)
- 2) 滝 巖 1965 : 新日本動物図鑑(中) 北隆館
- 3) 琉球政府気象庁 1970 : 海上気象日原簿
- 4) # 1970 : 暦と潮汐表
- 5) 長崎海洋気象台 1966~1970 : 西日本海況旬報
- 6) 琉球政府農林局 1969 : 琉球の水産業
- 7) 糸満漁業協同組合 1966~1970 : 糸満漁業協同組合日報
- 8) Takashi OKUTANI 1967 : Preliminary catalogue of Decapodan Mollusca from Japanese Waters Bull ToKai Reg. fish. Res.Lab.
- 9) 大日本水産会 1953 : 水産講座、漁業篇 5. タコ、イカ漁業
- 10) 金城 徹雄 1970 : 私信 在石垣市
- 11) 須田 完次 1964 : 海洋学通論 古今書院
- 12) 松原 喜代松 1964 : 漁類学(下) 恒星社厚生閣版
- 13) 宇田 道隆 1969 : 海 岩波書店